



校長室だより

令和6年度
10月2日
NO.28

何がいいのか、正しいのか、みんなで考える道徳で心を育てる



9月26日 4年生道徳「ぜったいひみつ」僕・わたしはこう思うよ。

九月二十六日、道徳指導員の米坂先生を招いて、道徳の授業研究が行われました。よしえさんの大の仲良しののり子さんが転校することになりました。のり子さんがお休みの日に、クラスでお別れ会の相談をしました。各班で出し物をするようになりました。のり子さんを驚かすために、内緒で準備をすることになりました。次の日ののり子さんは学校にできてきますが、みんな、のり子さんに内緒で準備を行うため、のり子さんは一人になってしまふことが増えます。そんなある日、よしえさんはのり子さんから「みんなあまり話もしてくれない」と言われます。あなたがよしえさんなら、本当のことを言うか言わないか、皆さんならどうしますか。「ぜったいひみつ」という教材です。

「のり子だけのためのサプライズ」「言ったら面白くない」「今ののり子が悲しかったら意味がない」「もしみんなのこと嫌いになつて休んだら意味がない」子供たちは真剣に、どちらがいいか考えます。「友情」を取るか「約束」を取るか、どちらが正解というわけではありませんが、のり子のことを考えると、どちらがいいか、皆、自分事として本音で自分の「価値観」で話し合います。道徳は二〇一八年に教科になりました。「考え議論する道徳」として、一つでない答えについて話し合います。様々な価値観に触れることで、自分自身の価値観を見つめ直します。

人は正しいと分かっているでもできないこと、あるいは間違っってしまうことがたくさんあります。好き嫌いで判断したり、自分の価値観を押し付けたり、逃げてしまったり：そうした人の弱さや狭さから起こる「葛藤」の中で、どうすることがいいのか「考える」ことは、とても大切です。それは大人にとってもです。多様な視野を持ち、相手のことを考えられる、そんな道徳心を育てていくことが、今後にも必要なことだと考えます。

・26日には、城北中学校で道徳指導員の米坂先生に、3年生、4年生、5年生が授業を見ていただきました。秦梨つ子は「素直でしっかり自分の意見が言える」と言っていました。